

マスカット基金とは

当事業は、主として「住民参加」「適正技術」「スモールスケール(あるいは適正規模)」「持続性」「主体性」「地域特性」などといったキーワードに沿って、より良い途上国支援の在り方を模索し、指し示していこうとする当社の志を表す独自の事業です。

国際耕種株式会社は1984年の創設以来、会社の名前が示すように農業の基本は種をまき、耕すことであるという思いを込めながら業務に携わってきました。これまで中近東やアフリカ諸国などの乾燥地域を中心に活動を行っており、これら地域の発展途上国における農業、林業、農村開発、地域計画、環境保全関連などの分野で技術協力に参画してきました。

こうした活動の中で痛感した社員に共通した認識は、発展途上国での地域住民の生活改善や福祉の向上を図るには地域住民の持続的かつ主体的な参画に基づいた活動が不可欠であり、そのためにも適正規模での事業こそが重要であるということです。我々の活動はあくまでもそれを支援していくことであり、早急な提案や現地の経済状況を無視した支援、資金提供などはかえって地域社会のシステムを壊していく可能性があると考えています。

このような認識に立ち、我々が出来る「草の根レベル」での協力・共同事業が行えないものか、またそのような活動の中から今日の国際協力の問題点や改善点を探ろうとするように考えるようになってきました。そして、1997年にオマーンの首都マスカットに社員全員が集まり、国際耕種で出来る草の根レベルでの協力を自分たちの力で出来る範囲で実施しようと決意し、皆から募金を募り「マスカット基金」を設立することに決定しました。当基金は、営利を追求する会社組織の中で共同出資した資金を活用し、NPO/NGOなどの地域に根ざす組織と直接共同作業を行い、小規模ながらも地域住民の切実な改善要求に沿った持続的な活動を実施しようとするものです。

マスカット基金の主要事業

協力事業実施組織の調査・発掘

これまでの現地における調査経験や交流関係を生かしながら、地域活動を行っている組織を掘り起こす。また、協力事業を要請する現地 NGO や NPO を訪問し、活動状況の視察や意見交流を行う。

各種団体との共同事業・技術協力

協力関係を築きあげた NPO/NGO と共同して、住民の生活向上を目指すプロジェクトに参加する。現地調査や情報交換を通して、必要な技術・資金の提供を行ったり、海外援助機関からの資金を得るための支援などを行う。

国際協力で活躍していく日本人後継者の育成

今後、国際協力分野で活躍できる若手人材を発掘し、教育する。海外で活動している社員や友人に紹介し、住民との交流や現場での実践的な作業に参加してもらう。

「マスカット基金」活動を通して得た情報の公開と住民参加手法の活用と適正技術の開発

得られた情報や活動を多くの人々に公開する。また、今後の国際協力の在り方をブレインストーミングしながら、住民参加手法の改善等を行い完成度を高めていく。